



2025年9月期 第2四半期 決算説明資料

2025年5月15日

株式会社リプライオリティ（証券コード：福証242A）

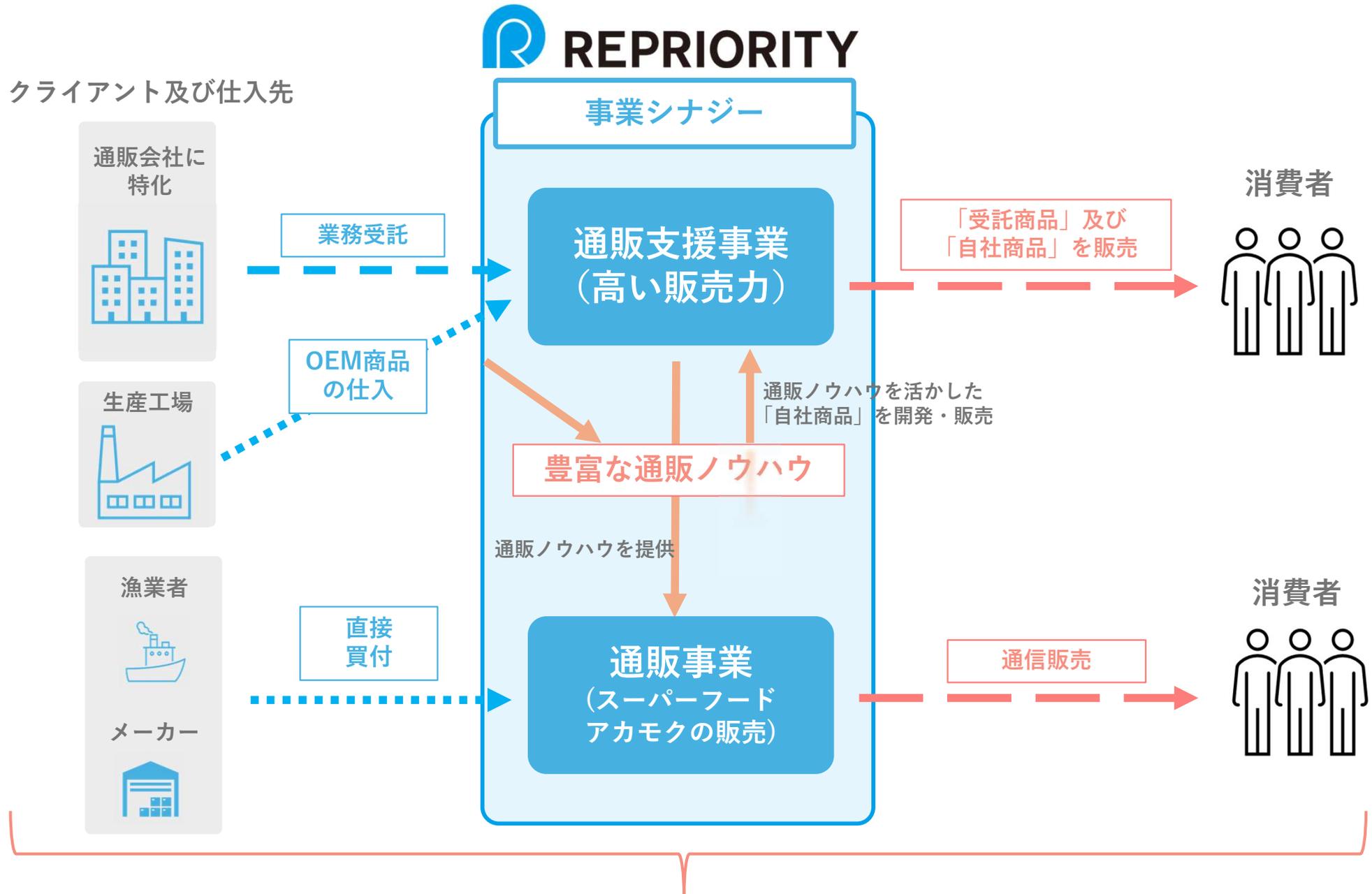
- 01 2025年9月期2Q サマリー
- 02 会社紹介
- 03 事業内容
- 04 2025年9月期2Q 決算概要
- 05 株価指数
- 06 成長戦略
- 07 FAQ

第2四半期実績

- ・ 2025年9月期第2四半期の当期純利益は**増益**で着地
- ・ 当期より本格導入した新商品の出荷件数は、**計画を上回って推移**

今後の展望

- ・ 第3四半期以降、利益進捗が進み予算を達成する見込み
- ・ 業績の進捗に応じ、前年水準の配当を目指す
- ・ 第3四半期以降、自社商品を**3商品**テスト販売開始



事業シナジーを活かした事業の継続的な成長を実現

会社紹介

会社名	株式会社リプライオリティ (福岡証券取引所 証券コード：242A)
所在地	<福岡本社> 福岡県福岡市博多区綱場町9-20 長府博多ビジネスセンター3F
子会社	日本ウェルネス研究所株式会社
設立	1998年9月24日
資本金	217,808,000円
社員数	443名 (2025年3月末)
代表者	代表取締役社長 中山 伸之
事業内容	D2C事業、リテールメディア事業、通販事業
営業拠点	東京支社・福岡コールセンター・筑紫野コールセンター 久留米コールセンター・大阪コールセンター



人々のライフスタイルを**変革**する

「人々のライフスタイルを変革する」

私が1998年に起業した時に掲げた企業理念であり、
当社の存在意義です。

昨今は「不確実な時代」と言われており、様々な事象が
流動的になっているからこそ、当社が培ってきた

「創出力」が真価を発揮できると考えています。
当社は新しい価値、そして新しい産業を創出し
社会貢献をしていきたいと考えています。

変革

代表取締役社長

中山 伸之

Shinji Nakayama



MAKE LIFESTYLE CHANGE

事業内容

3つの強みの相乗効果により
クライアント先の売上拡大に貢献



知見・データの蓄積

クライアントを**通販会社**に特化し知見、データを蓄積



高い販売力

約**400名**の営業部隊が
月間平均**150万**架電



徹底した品質管理

音声データをモニタリングし、法令違反をしていないか/その場限りの受注をしていないか/消費者が納得して購入しているかをチェック、指導を行い徹底した品質管理

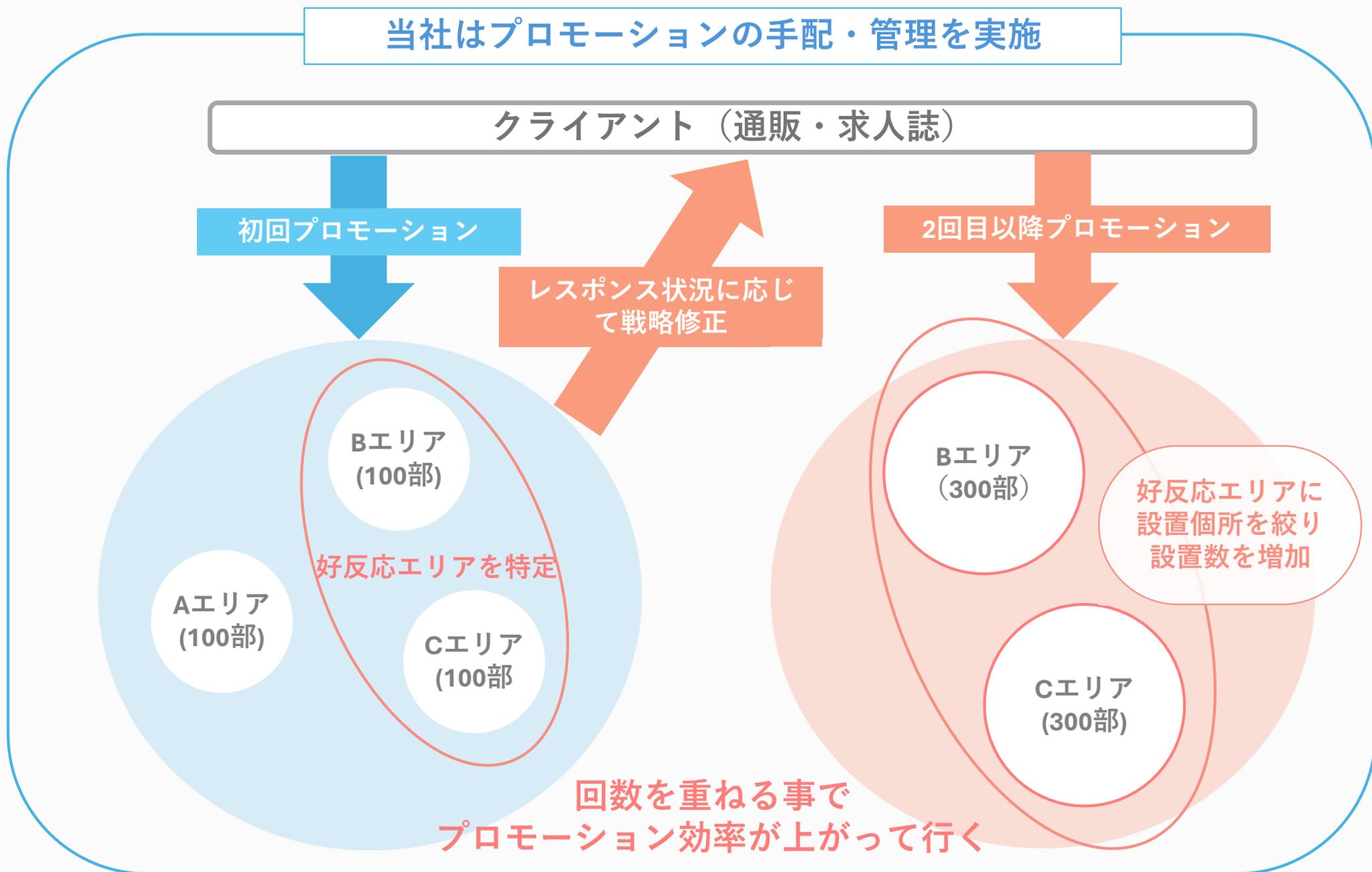
小売店舗のスペースを活かした効果的なセールスプロモーション

提携先の一例



全国の小売店 **10,998** 店舗の

スペースに設置可能



スーパーフードと呼ばれている「アカモク」を通信販売



アカモクとは？

褐藻類の海藻の一種です。

フコキサンチンが多く含まれており、脂肪を燃焼させる褐色脂肪細胞の働きを高めると言われています。栄養価が高く近年ではスーパーフードとして注目されています。



テレビ番組や新聞等のメディアで多数の紹介事例 その1



NHK番組で紹介



TBS(林修氏日曜日の初耳学)で紹介

主な褐藻類の栄養成分比較

(出典)日本調理科学会誌
文化善データベース 日本家政学会誌

	アカモク	ワカメ
エネルギー	19kcal	16kcal
食物繊維	5.5g	3.6g
フコイダン	26g	15g

100gあたり

日本テレビ(鉄腕DASH)で紹介



KBC(九州朝日放送)番組で紹介

テレビ番組や新聞等のメディアで多数の紹介事例 その2

慶大・硫酸化パターン判明

フコイダン

新型コロナウイルスに高阻害活性

慶大・硫酸化パターン判明

慶心義塾大学の髙橋大介准教授、戸嶋一敦教授らは海藻のぬめり成分である硫酸化多糖「フコイダン」の新型コロナウイルスへの高い阻害活性を確認した。大阪大学との共同研究。フコイダンの基本となる硫酸化四糖を系統的に有機合成し、新型コロナウイルスのスパイクたんぱく質の阻害活性を評価した。その結果、九つの水酸基が硫酸化された構造で高い阻害活性が得られた。

海藻アカモク食べると善玉菌割合増加「3週間摂取で驚きの変化」 腸内環境改善、便秘解消や体重減った人も...福井県立大特命教授が発表

2024年6月23日 午後5時00分



アカモクを摂取した人に腸内環境改善がみられたことを報告する村上特命教授 = 6月18日、福井県永平寺町の県立大永平寺キャンパス

福井県立大学看護福祉学部の村上茂特命教授（食品機能学）は、海藻のアカモクを一定期間食べた人たちに腸内環境の改善がみられたとの研究結果を発表した。腸内のいわゆる「善玉菌」の割合が増え、便秘改善といった健康増進効果があったとし、「アカモクを使った商品開発や観光など地域活性化につなげたい」と話した。

村上特命教授は2019年から、ワカメの生育を妨げるなど「厄介者」とされるアカモクの有効活用を目指し研究を続けている。既にマウスを使った実験では腸内環境改善効果を確認しており、今回は富山県立大の研究者と共同で人体での検証を試みた。

Ads by Google

この広告の表示を停止

広告表示設定

日刊工業新聞 記事抜粋

福井新聞 記事抜粋

航空燃料向け大型海藻

山口で養殖実験開始

三重大学の柴田教授は、食用に向かない大型海藻を養殖し、航空機燃料の原料にする。山口県で始めた。2022年度にエタノール製造

三重大学の柴田教授は、食用に向かない大型海藻を養殖し、航空機燃料の原料にする。山口県で始めた。2022年度にエタノール製造

柴田教授は「山口県で始めた。2022年度にエタノール製造」

三重大学の柴田教授は、食用に向かない大型海藻を養殖し、航空機燃料の原料にする。山口県で始めた。2022年度にエタノール製造

柴田教授は「山口県で始めた。2022年度にエタノール製造」

三重大学の柴田教授は、食用に向かない大型海藻を養殖し、航空機燃料の原料にする。山口県で始めた。2022年度にエタノール製造

柴田教授は「山口県で始めた。2022年度にエタノール製造」

日本経済新聞新聞 記事抜粋

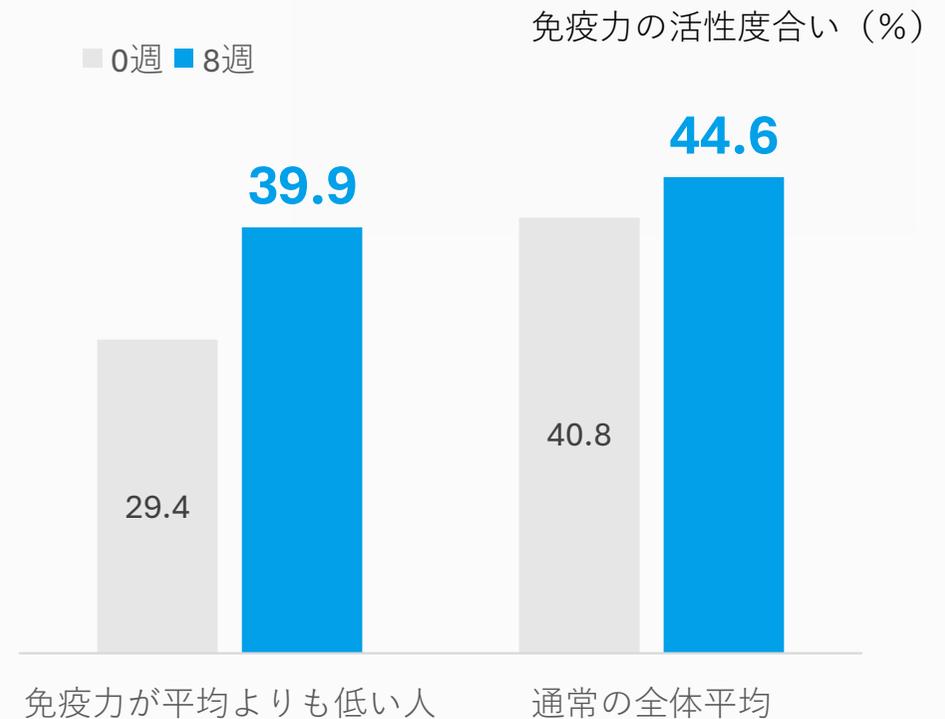
アカモクは他の海藻と比較して、栄養素が高い傾向にあります。
 その中でも「フコキサンチン」「フコイダン」は様々な研究が実施されており、
 その効果に期待が集まっています。

主な褐藻類の栄養成分比較

100gあたり	アカモク	ワカメ	もずく
エネルギー	19kcal	16kcal	4kcal
食物繊維	5.5g	3.6g	1.4g
ナトリウム	550mg	610mg	90mg
カリウム	1,165mg	730mg	2mg
カルシウム	107mg	100mg	22mg
マグネシウム	91mg	110mg	12mg
鉄	1.6mg	0.7mg	0.7mg
フコキサンチン	380mg	100mg	200mg
フコイダン	26g	8g	25g

出典：日本調理科学会誌38巻72-76ページ
 文部科学省食品成分データベース

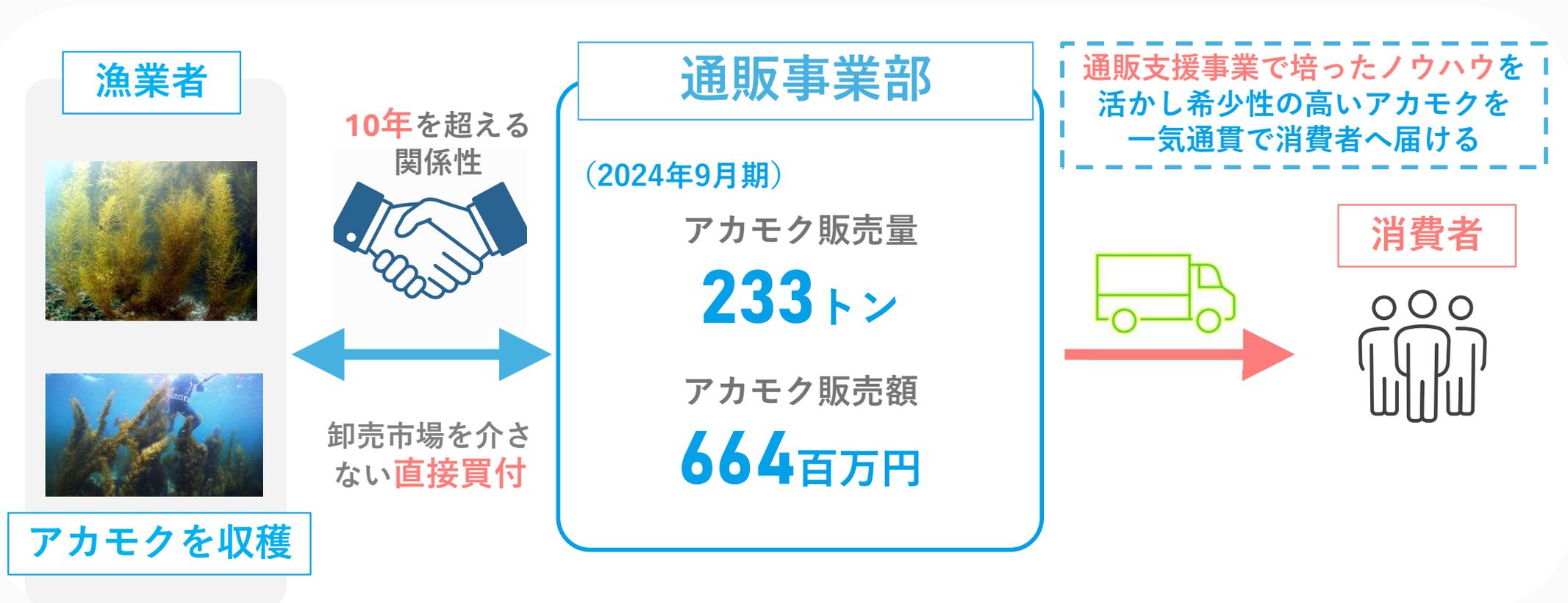
フコイダン摂取による免疫力の向上



※ナチュラルキラー細胞の活性度
 出典：日本補完代替医療学会誌 Vol.9, No.2 (2012)
 人数 18名 (男性7名・女性11名) / 年齢 69±7歳 / 摂取期間 8週間

特定の漁業者から仕入を行うことで、高品質のアカモク等の原料を継続的に使用可能
通販支援事業で培ったノウハウを存分に活かした販売を実施

アカモクは、予備校講師でTVタレントの林修氏が“毎日食べている食品”として紹介するなど、いま注目度が増している



2025年9月期 第2四半期 決算概要

売上高

1,335百万円
(前年同期比**96%**)

売上
総利益

702百万円
(前年同期比**106%**)

営業
利益

135百万円
(前年同期比**97%**)

経常
利益

146百万円
(前年同期比**96%**)

親会社株主に帰属する

当期純
利益

101百万円
(前年同期比**101%**)

1株当たり
配当金
(予想)

34.0円

原価低減施策により原価率が低下し、売上総利益が増加した一方、販売費一般管理の増加により、営業利益及び経常利益は減益となった。

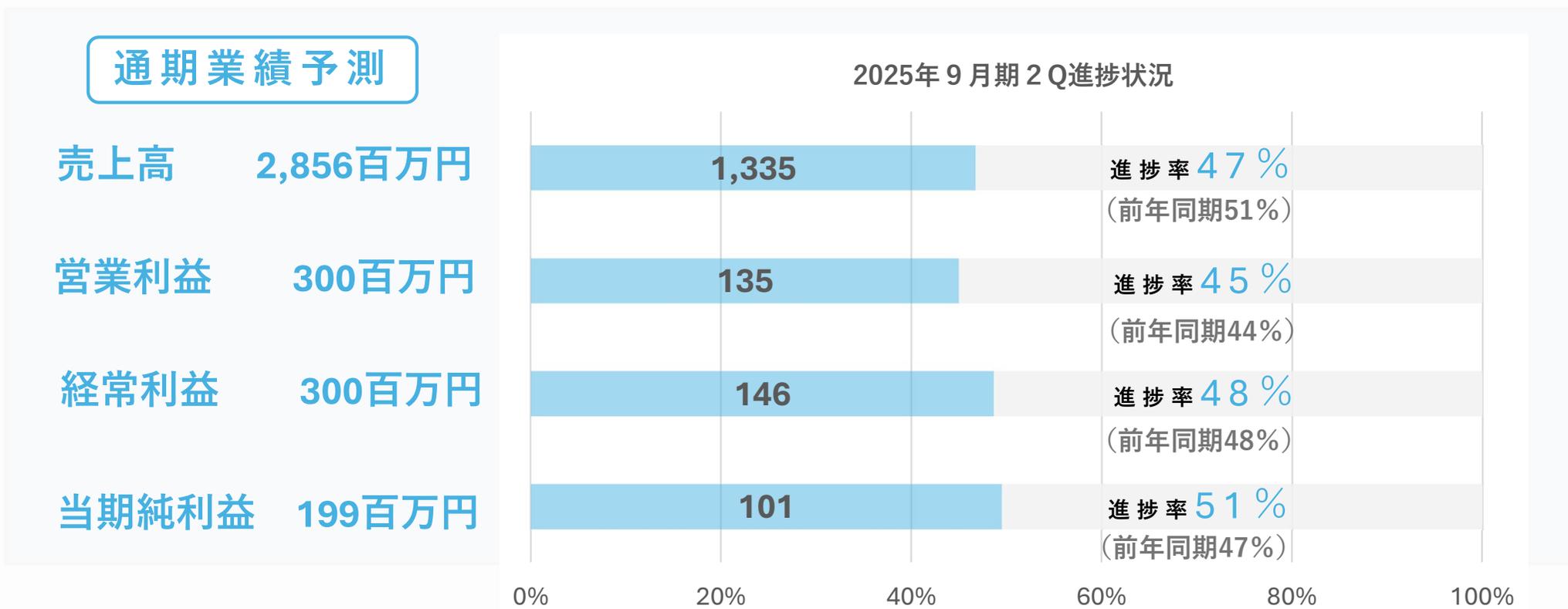
	2024年9月期2Q (実績)	2025年9月期2Q (実績)	増減	2025年9月期 (予算)	進捗率
売上高	1,385	1,335	△50	2,856	47%
売上総利益	663	702	+39	1,423	49%
営業利益	140	135	△5	300	45%
経常利益	153	146	△7	300	48%
当期純利益	99	101	+2	199	51%

法人税等の支払額が30百万円増加したものの、売上債権が15百万円・棚卸資産が12百万円減少したことで前年並みの営業キャッシュ・フローを維持

	2024年9月期2Q (実績)	2025年9月期2Q (実績)	増減
営業活動による キャッシュ・フロー	100	96	△4
投資活動による キャッシュ・フロー	△1	0	1
財務活動による キャッシュ・フロー	△28	△65	△37
現金及び現金同等物の 期末残高	757	1,298	541

第2四半期終了時点の業績は計画に沿った水準で推移、例年、上期に広告投資を集中させるため、上期の進捗率は40%台で推移する傾向。

第3四半期以降、収益力の強化及びコスト管理により予算達成に向け着実な事業運営を推進

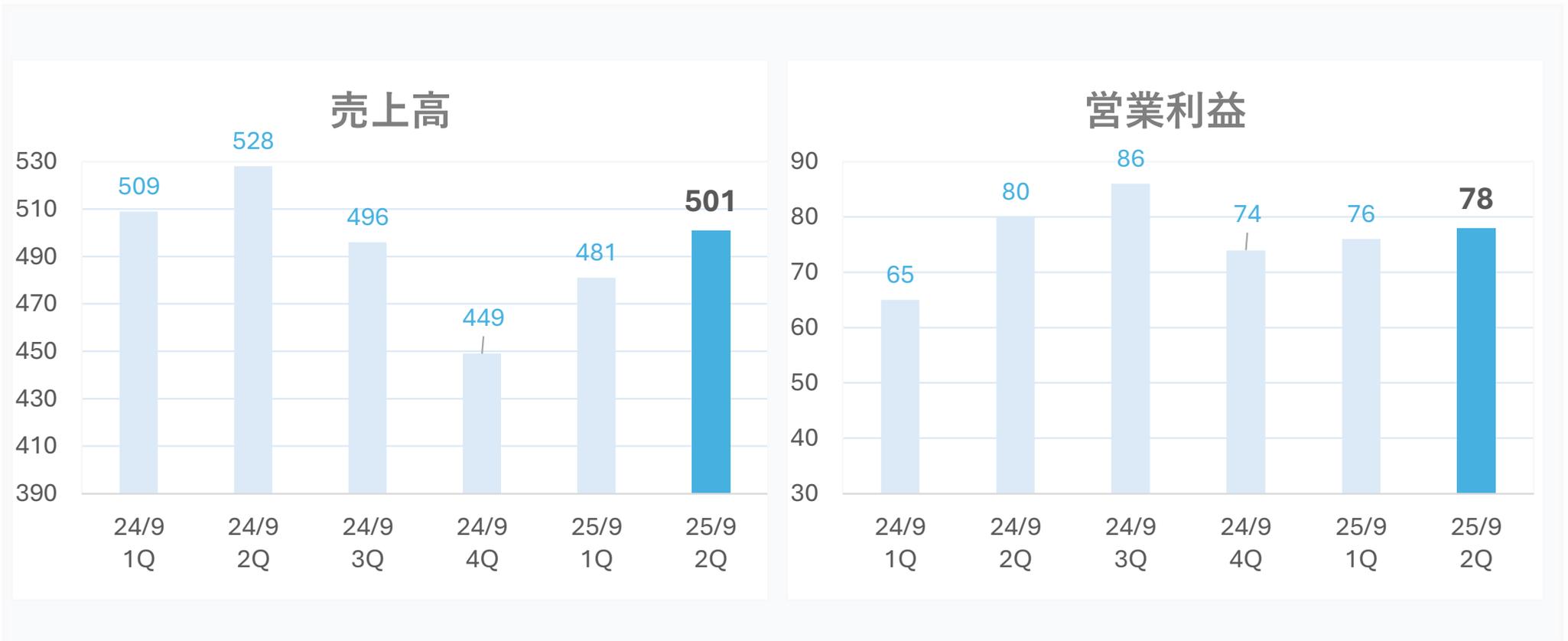


自己資本比率は、**69.2%**と健全な財務基盤を保持

潤沢な現預金は、将来的にM&A、採用、新規商品開発に投資予定

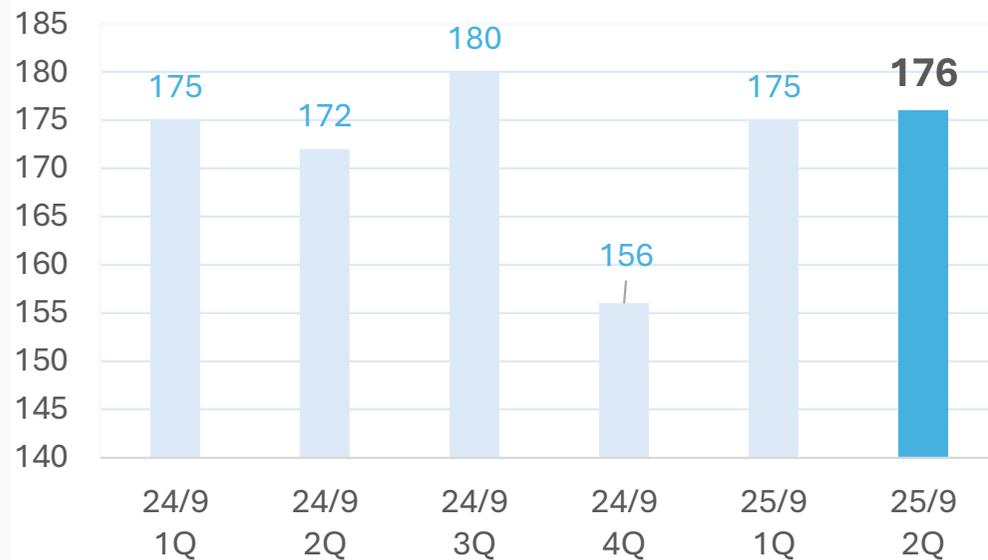


前期の後半から紅麴問題の影響もあり、一時的に売上高が減少したものの、取引先ポートフォリオの組替を行い現在は回復基調
 原価低減施策を実行し、売上高が減少する状況でも利益を確保

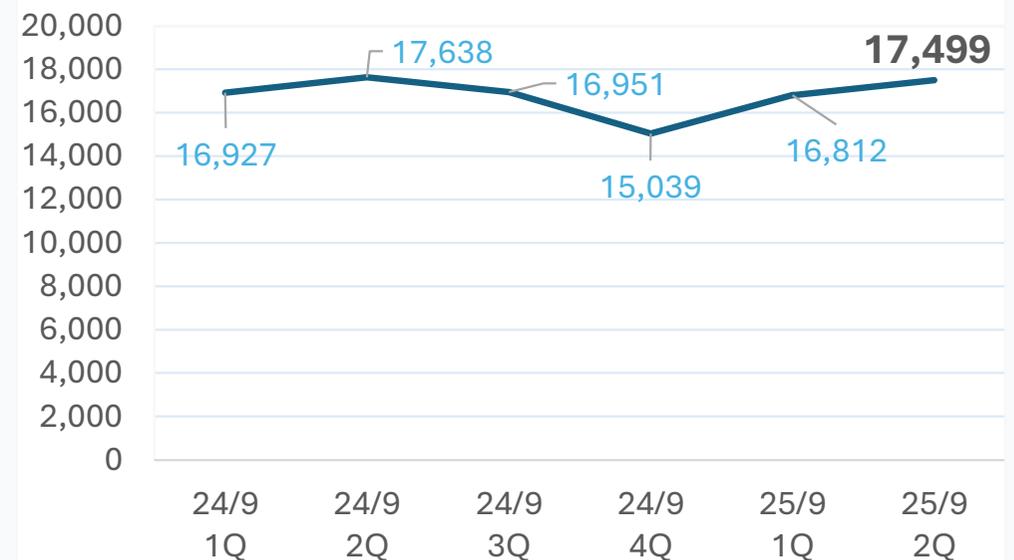


売上高は概ね計画通りに進捗、定期顧客数は適正水準で推移

売上高



定期顧客数



株價指標

3月末時点のPERは、6倍と東証グロース市場サービス業株平均25倍を大きく下回る状態
2024年9月期のROEは25.94%と、東証グロース市場サービス業平均15.12%と比較しても
高収益体質、配当金は業界水準以上を目指す

PER

東証Gサービス業平均
(2025/3/31時点)

25倍

>

当社(2025/3/31時点)

6倍

ROE

東証Gサービス業平均
(2024年3月期)

10.08%

<

当社実績
(2024年9月期)

25.94%

DOE

(純資産配当率)

東証Gサービス業平均
(2024年3月期)

2.7%

<

当社実績
(2024年9月期)

5.6%(記念配当20円込)

※PERは、株価(3/31時点)／予想一株当たり利益で計算しております。

上場サービス業のうち、当社と時価総額が同水準（12億程度）の企業と比較しても、**自己資本比率・ROE・配当利回り等の指標は高水準**である一方で、PERは低位の状況にある。

	当 社	A 社	B 社
PER(倍)	6倍	11倍	24倍
PBR(倍)	1.14倍	0.94倍	1.62倍
配当利回り	3.0%	1.1%	—
自己資本比率	66.2%	48.4%	45.2%
ROE(%)	25.9%	10.0%	2.41%

※数値情報はYahoo!ファイナンスより転載

※PBR・自己資本比率・ROEは直近通期決算の実績に基づいて算出したものです。

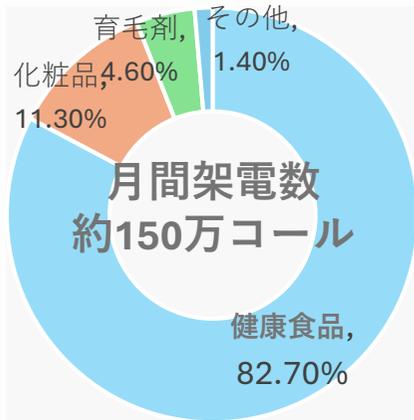
成長戦略

川下から川上へ

現在は通販会社からの受託販売が中心、今後は商品開発を事業ポートフォリオに組入れポジショニングを川下から川上へ

「何がいくらでどれだけ売れるか」をデータで蓄積

データを基に売れる商品を企画・開発。ドラッグストアやコンビニのPB戦略をベンチマーク



分類：ダイエットサプリA
平均単価：¥11,151-
レスポンス率：0.80%



分類：ダイエットサプリB
平均単価：¥21,784-
レスポンス率：0.63%



分類：化粧品C
平均単価：¥7,880-
レスポンス率：1.69%



事業の安定成長を目指す

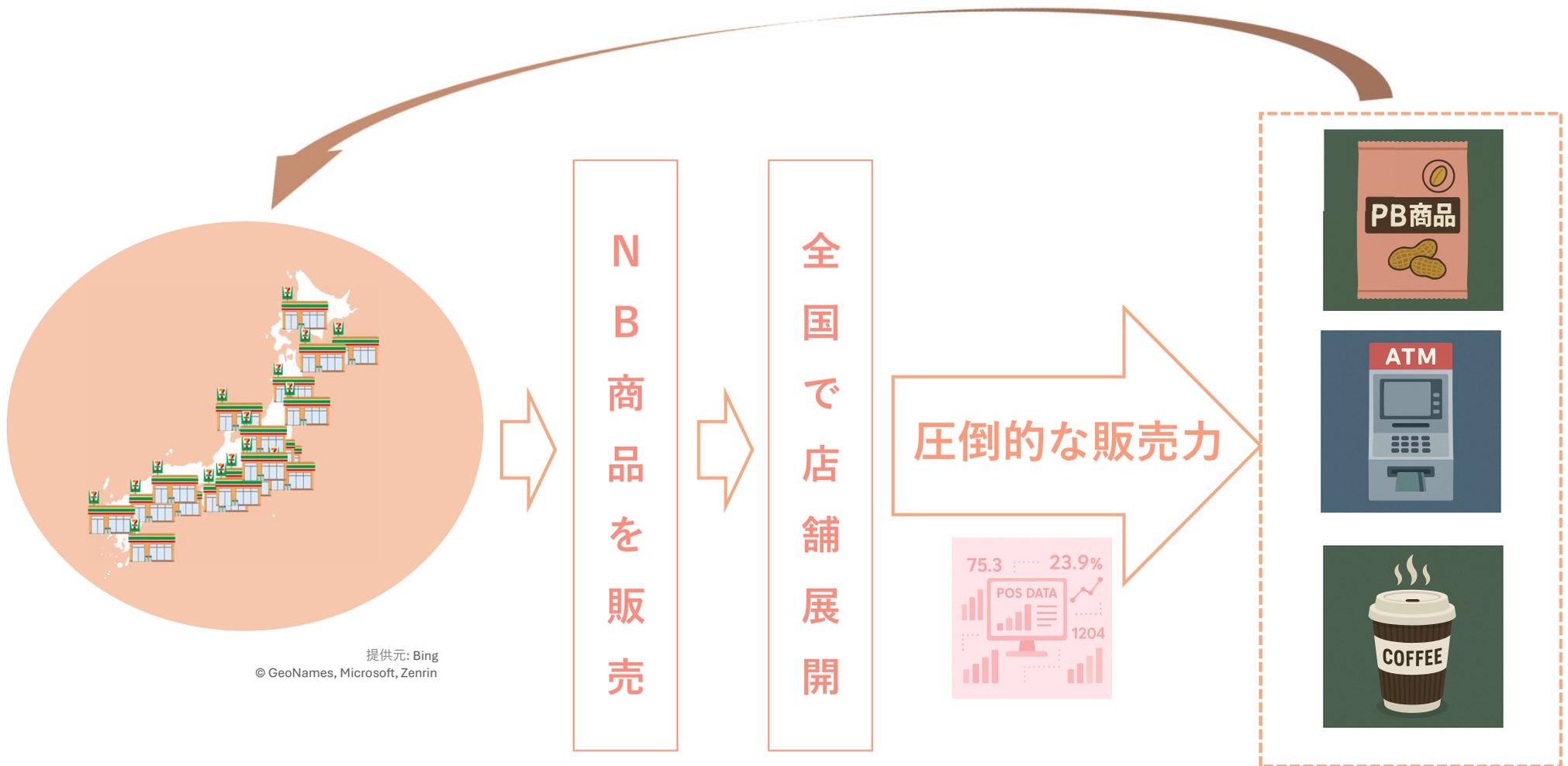
売れる新商品の企画・開発

販売データの継続的な蓄積

400名のコミュニケーターによる月間150万コール



開発した新商品・サービスを全国数万店舗で一気に展開



コンビニエンスストアのPB戦略をベンチマークとした川上戦略を実行

2023年9月期より自社商品(しじみのめざめ)のテスト販売を開始し、2025年9月期より本格導入、通期売上高で前年比51%増の59百万円を目指す。第2四半期累計の出荷数は、計画比109%となり、順調な進捗状況

しじみのめざめ販売実績及び計画

	23/9月期 (テスト)	24/9月期 (テスト)	25/9月期 (計画)
売上高	18,701	39,747	59,998
営業利益	244	18,851	28,627

しじみのめざめ進捗状況

2025年3月31日時点

	計画	実績	進捗率
出荷数	8,200件	8,955件	109%



産学連携による、アカモクの可能性を追求、認知の拡大、新製品の開発、養殖の可能性を研究

産学連携によるアカモクの可能性を研究

宮下和夫教授
プロフィール

北海道大学大学院 水産化学
学研究院 名誉教授

DHA・EPA・フコイダン・
フコキサンチンに関する研
究の世界的権威
多数の研究論文・著作物を
発表

<主な受賞歴>

アメリカ油化学会から
Kaufman Memorial Lecture
Awardを受賞
日本水産学会水産学進歩賞
日本油化学会賞など多数受
賞

<委員歴>

国際機能性食品学会・日本
油化学会・米国油化学会・
日本学術会議 等多数



顧問契約



2023年10月に北海道大学名誉教授 宮下和夫氏と顧問契約、アカモク研究・論文発表等による
アカモクの認知度向上、アカモクを原料とした製品化、養殖の可能性等を研究



全国に群生するアカモクを有効活用することで、第一次産業・地方創成・食料危機対策に繋げる

FAQ

1. 今期の配当方針はどのように考えていますか？

計画では34円と発表しておりますが、今後の業績進捗を鑑みて前期並みの配当を行いたいと考えています。業績が向上すれば増配も考えています。

2. 潤沢な現預金を保有していますが、今後の投資方針を教えてください

今後は、M&A等への投資を行い、潤沢な現預金を有効活用し事業成長を加速させていく目論見です。

3. 今後M&Aを実行するとしたら、どのような企業をターゲットとしていますか？

良い商品、サービスを持っていても、販売力がない、資金力がない等の企業が非常に多いと考えています。その様な企業と当社の強みである販売力が事業シナジーを創出する可能性が高いM&Aや業務提携を実施して行きたいと考えております。

4. 今後の東証上場へのロードマップを教えてください

早期の東証上場に向けて、時価総額の基準を満たすよう企業価値の向上に取り組んでまいります。

5. アカモクの販路拡大の取組みについて知りたい

TVタレントを起用した、食レポ番組型CMを制作し認知拡大施策を行っております。また、供給力を確保するため養殖の可能性を摸索してまいります。